



川島整形外科病院 理事長
川島 真人氏

ひびこえのようにつ育つ病院に

昨年11月に完成した新川島整形外科病院入り口にモニュメントがある。穴を二つ開けた長方形の石を斜めに連ねたそのモニュメントは、以前同病院で治療した芸術家の作品。病に倒れた自身が立ち上がる姿と、「水滴は岩をも穿つ」小さな力でも、根気よく続けられればいつか成果が得られる」という社会医療法人玄真堂の理念が込められている。

リアルタイムに見ながらカレンスや家族への説明ができる新システムを導入。MRI、最新式CTスキャン、大型高気圧酸素治療装置も設置し、「ローカルで最新の医療提供」を目指す設備が整った。先人の知恵を継ぎ新しいものを創造する「温故創新」を大切にしている川島理事長。東日本大震災を受け過去の中津の津波被害を調べ、結果を基に4階建ての予定だった

病院DATA

- 診療科目
整形外科・リハビリテーション科
リウマチ科・放射線科・脳神経外科
麻酔科(津末輝彦)
- 診療時間
月～金/9:00～18:00
土/9:00～12:00
- 休診日
日曜、祝日、年末年始(12月30日～1月3日)



昨年11月に完成した新病院

新病院を5階建てにし、病室を上階に移す設計変更をした。徹底的に追求したエコの面では、太陽熱発電、太陽熱による風呂、天然ガス冷暖房、地下熱の利用、残食を活用した肥料づくりなどさまざまな工夫が施されている。「親交があつた故塩屋俊監督の遺作劇『HIKOBANE』は、震災の実話を基に人間の絆が最も重要であると描かれています。豊後高田市の山神社では焼けたタブノキが、ひこばえ(若芽)から10年で再生しました。また津波

被害にあつた東北沿岸部では、多くの神社のタブノキのところで波が止まったそうです」
2012年の「かわしまクリニク」新築、整形外科新築、進行中の介護ヘルスケアセンター整備で、3年かけ進めた「整形外科の総合病院化」が終了、4月に竣工を予定している。「今後も、たくましいタブノキとひこばえのような病院であり続けたい」。水滴のように、若芽のように、川島理事長の理想は成長し続けている。

